

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和3年6月10日(2021.6.10)

【公開番号】特開2019-126389(P2019-126389A)

【公開日】令和1年8月1日(2019.8.1)

【年通号数】公開・登録公報2019-031

【出願番号】特願2018-7812(P2018-7812)

【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 6 D

【手続補正書】

【提出日】令和3年4月16日(2021.4.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技を行う遊技機において、

複数の決定対象からいずれかの決定対象を決定結果として決定する処理を行う決定処理手段と、

決定対象を決定結果とするか否かを判定する際に用いられる判定用データを格納する判定用データ格納領域と、

を備え、

前記決定処理手段は、初期設定処理の後に終了条件が成立するまで、所定数値を一定値分更新し、更新した所定数値から特定されるデータを用いて対応する決定対象を決定するか否かを判定する共通の決定判定処理を複数の決定対象毎に繰り返し実行し、

前記初期設定処理では、最初の決定対象に対応するデータが特定される所定数値の一定値分前の所定数値を初期の所定数値として設定し、

前記判定用データ格納領域は、1バイト以内の判定用データが格納される1バイトの1バイト領域と、1バイトを超える判定用データが格納される2バイトの2バイト領域と、を含み、

前記決定判定処理において更新される所定数値から特定されるデータは、前記判定用データ格納領域の先頭アドレスから当該決定判定処理において決定の対象となる決定対象の判定用データが格納された領域のアドレスまでの差分値であり、

前記決定判定処理では、更新した所定数値から特定される差分値を取得し、取得した差分値が前記1バイト領域を示す値であるか、前記2バイト領域を示す値であるか、に応じて異なる種別データを設定し、種別データに応じて決定対象を決定するか否かを判定する際に用いる判定用データを判定用データ格納領域から取得する際の処理を異ならせる、遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

(1) 遊技を行う遊技機（スロットマシン1）において、複数の決定対象からいずれかの決定対象（抽選対象役）を決定結果（当選）として決定する処理を行う決定処理手段（内部抽選処理）と、決定対象を決定結果とするか否かを判定する際に用いられる判定用データ（判定値データ）を格納する判定用データ格納領域（判定値データテーブル）と、を備え、

前記決定処理手段は、初期設定処理の後に終了条件（いずれかの抽選対象役が当選するか、すべての抽選対象役について抽選を行うこと）が成立するまで、所定数値（現在位置アドレス（HL））を一定値分（1アドレス分）更新し、更新した所定数値から特定されるデータ（検索データ）を用いて対応する決定対象（所定役番号の抽選対象役）を決定するか否かを判定する共通の決定判定処理を複数の決定対象毎に繰り返し実行し、

前記初期設定処理では、最初の決定対象（通常時は役番号48の抽選対象役、BB中は役番号50の抽選対象役）に対応するデータ（検索データ）が特定される所定数値（BB中はアドレスnC、通常時はアドレスnD）の一定値分（1アドレス分前）前の所定数値を初期の所定数値（現在位置アドレス（HL））として設定し、

前記判定用データ格納領域（判定値データテーブル）は、1バイト以内の判定用データ（1バイトデータ）が格納される1バイトの1バイト領域と、1バイトを超える判定用データ（2バイトデータ）が格納される2バイトの2バイト領域と、を含み、

前記決定判定処理において更新される所定数値から特定されるデータは、前記判定用データ格納領域の先頭アドレス（基準アドレスm）から当該決定判定処理において決定の対象となる決定対象の判定用データ（判定値データ）が格納された領域のアドレスまでの差分値（検索データ）であり、

前記決定判定処理では、更新した所定数値から特定される差分値を取得し、取得した差分値が前記1バイト領域を示す値であるか、前記2バイト領域を示す値であるか、に応じて異なる種別データ（種別係数E）を設定し、種別データ（種別係数E）に応じて決定対象を決定するか否かを判定する際に用いる判定用データ（判定値データ）を判定用データ格納領域（判定値データテーブル）から取得する際の処理を異ならせることを特徴としている。

この特徴によれば、複数の決定対象からいずれか決定対象を決定結果として決定する場合に、アドレスを一定値分更新し、更新したアドレスから特定されるデータを用いて対応する決定対象を決定結果とするか否かを判定するループ処理を終了条件が成立するまで繰り返し実行すれば良いので、プログラム容量を削減することができる。また、判定用データ格納領域の先頭アドレスから判定対象となる決定対象の判定用データが格納された領域のアドレスまでの差分値に応じて1バイト領域に格納された判定用データを用いるか、2バイト領域に格納された判定用データを用いるか、を特定し、異なる処理を行わせることができるとともに、取得した差分値から種別データを設定しておくことで、その後の処理において、1バイト領域に格納された判定用データを用いるか、2バイト領域に格納された判定用データを用いるか、を特定する場合でも、種別データを参照するのみでその都度差分値を取得して判断する必要がない。